

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	薬事衛生課長 柳 俊徳	電話番号	0852-22-5257
----------	-------------	------	--------------

事務事業の名称	感染症予防対策推進事業		
目的	(1) 対象	県民、医療機関、市町村等	
	(2) 意図	感染症の発生及びそのまん延防止を図る。	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の予防に関する意識を高めるため、県民・医療機関・行政に対し、情報提供を行う。 ・感染症を早期に発見しまん延を防止するために、感染症発生動向調査及び積極的疫学調査を行う。 ・予防接種を適切に受けられるように、予防接種従事者講習会や、予防接種事故対策補助金の交付を行う。 		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	1～3類（結核を除く）感染症患者発生率（人口10万人対）	目標値		2.3	2.3	2.3	2.3	人
		取組目標値							
	式・定義	1～3類（結核を除く）感染症患者発生数/県人口×10万人	実績値	12.1					
			達成率	-	-	-	-	-	%
2	指標名		目標値						
			取組目標値						
	式・定義		実績値						
			達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	40,722	72,096
うち一般財源(千円)	19,106	35,878

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

平成27年度は、高校において寮の食事を原因とする腸管出血性大腸菌感染症の集団発生が起こったため、患者報告数が大幅に増加した。しかし、それ以外の報告数は少なく、事件件数は減少している。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

平成27年度は、西アフリカで続いているエボラ出血熱や、韓国で広がった中東呼吸器症候群(MERS)に対応するため、患者搬送体制や県内の医療体制の確認を行った。

ウイルス性肝炎の早期発見のため、肝炎検査を行った。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
エボラ出血熱、鳥インフルエンザ、中東呼吸器症候群(MERS)など、いつ国内で発生していない感染症が侵入するかわからない。
- ②困っている状況が発生している「原因」
海外への渡航や外国からの観光客など、国内外への人の流れは、ますます増加しており、感染症の流入リスクも増大している。
- ③原因を解消するための「課題」
検疫により水際対策がなされているが、国内への侵入に備え、保健所における相談体制や初動体制を常に確認しておく必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

各保健所における感染症の発生時の対応体制を、県内で一定レベルに保つために、各保健所で作成している対応マニュアルの検討を行う。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）